

成果指標				
成果指標	参加人数			
指標設定の考え方	介護教室への参加人数の増加が高齢者を在宅で介護している家族等の身体的・精神的負担の軽減を図ることに繋がるとともに、要介護者等の在宅福祉の向上を図ることができる。			
区分年度	26年度	27年度	28年度	
目標	450人	450人	450人	0
実績	279	343	0	0

自己評価				
自己評価 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	4	B
		市民ニーズへの対応	4	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	4	B
		成果向上の可能性	4	
		施策への貢献度	3	
	効率性	手段の最適性	4	B
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	今年度は、開催回数・参加人数の増加が見られた。今後も介護予防や健康づくり・介護方法等知識や技術の習得の機会として継続していく。			

一次評価				
一次評価 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	4	B
		市民ニーズへの対応	4	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	4	B
		成果向上の可能性	4	
		施策への貢献度	3	
	効率性	手段の最適性	4	B
		コスト効率	4	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	開催回数・参加人数とも増加している。介護技術の向上のみならず、介護を行っている者同士の情報交換の場にもなっている。今後も引き続き教室の開催回数・参加人数の増加を目指していく必要がある。			

二次評価	
二次評価 (所属部長)	一次評価結果のとおり事業継続と判断する。
意見、課題	

行政評価委員会の答申

外部評価
(行政評価委員会)

経営者会議の最終判断

事業の方向性

現状のまま継続する。

意見、課題